

## イエスの決別説教（17）：イエスの祈りⅠ「使命に生きる者となるために」

メッセージノート 2022. 5. 22

ヨハネ 17:1-5<sup>1</sup>ひとしきり語り終えられると、イエスは天を見上げて言われました。「父よ。いよいよ時が来ました。わたしがあなたに栄光をお返しできるように、わたしの栄光を現してください。<sup>2</sup>地上のすべての人を支配する権威をわたしに下さったので、こうして、あなたから任せられた一人一人に、永遠のいのちを与えられるのです。<sup>3</sup>ただ一人のまことの神であるあなたと、あなたがこの地上にお遣わしになったわたしを知ること、それが永遠のいのちを得る道です。<sup>4</sup>わたしはあなたに言われたとおりを成し遂げ、地上であなたの栄光を現しました。<sup>5</sup>父よ。今こそあなたの前で、わたしの栄光を現してください。世界が造られる前から、ごいっしょに持っていたあの栄光で、わたしを輝かせてください。

### ◆ イエスの祈り

- ・ イエスは、しばしば祈られていたが、その内容については知られていない。ここには、イエスがこの地上をさる直前にどんなことを祈ったのかが、一章に渡って記されている。
- ・ 内容は、(1)ご自身のために(1-5)、(2)弟子たちのために(6-19)、(3)第二世代の弟子たちのために(20-26)。
- ・ 今日、(1)について学ぶが、ご自身のための祈りとはいうものの、その内容は自分のためというよりも、父なる神の御心である人類の救いという使命の達成のため祈りである。

### ◆ イエスの祈りから学ぶ

#### 1. 親密さ

- a. 天を見上げ あたかもそこにおられる距離感
    - ・ 弟子たちは、イエスが父なる神を目の前にして語り合っているのを目撃する。この信頼関係こそ祈りの土台。
    - ・ 天を見上げというのは、当時の文化の中でなされていた形。しかし、人間の普遍的神への姿勢でもある。一人一人が自然な形で主の前に出ることが大切。
  - b. 時の重要性
    - ・ 「わたしの時はまだ来ていない」から「いよいよ時が来ました」
    - ・ 活躍の舞台も用意している（エペソ 2:10）
  - c. 栄光に輝く
    - ・ 神の圧倒的臨在感
    - ・ ヨハネ福音書の十字架（栄光に輝く凱旋）神と顔と顔を合わせて語ったモーセの顔が輝く
- もし、私たちが神の御心に従って使命に生きる時、神の栄光に輝く驚くべき祝福の人生を生きることができる。

#### 2. 父なる神の御心と同じ方向を見ている

- a. これまでも、そしてこれからも神の使命を遂行していく → 「<sup>4</sup>わたしはあなたに言われたとおりを成し遂げ、地上であなたの栄光を現しました。」
  - ・ 物理的距離感の近さのみならず、父なる神の思いと、すべての点において一致して生きるイエス
  - ・ この祈りには、イエスが父に何かを嘆願していることはなく、遣わされた父の御心を従順に行なっていくことを祈っている。同意していると言ってもよい。
- b. イエスの祈りと私たちの祈りの違い
  - ・ 神の御心が最善であるにもかかわらず、それが、その時には分からないか、気に入らない私たちは、従うことにストレスを感じる（緊張関係が生じる）。
  - ・ 私たちの祈りの特徴は、先週のヤコブや預言者ヨナのように、神と争ったり、神の命令に真っ向から反抗した

りする。しかし、そこで失われるエネルギーと時間は甚大なものがある。

では、どうしたら人生を無駄に過ごすことなく、充実した生き方ができるのか？

### 3. 神を経験していく

「ただ一人のまことの神であるあなたと、あなたがこの地上にお遣わしになったわたしを知ること、それが永遠のいのちを得る道です」(3)。

- 「永遠のいのち」とは、天国に行ってから命ではなく、もうすでにこの地上から始まっている。
- 父なる神とイエスを知ることだという。「知る (ギノースコー)」とは、深く知ること、すなわち経験することである。そして、ここでは継続形が使われていて、経験し続けていくことであり、神との人格的霊的信頼関係を日々深めていくことである。
- すなわち、永遠のいのちとは、イエスの提供している赦しの恵みと、父なる神の愛と、そのことを心に深く刻み込んでくださる聖霊との親しい交わりのことである。このいのちを、クリスチャンは与えられていて、このいのちは、「永遠の」と言われているように、死後も永遠に保証されている力であり、喜びである。
- 現実的問題：神の御心が最善であると頭では分かっているし、神の愛がチャレンジの背後にあることも理解している。しかし、心（体）がついていかないという現実をどうすればよいのか？

➤ **視点を変えよ**：従うことにストレスを感じたら、「心から喜ぶことにしなさい」

ヤコブ 1:2-4<sup>2</sup> 愛する皆さん。あなたがたの人生は、多くの困難と誘惑に満ちていますか。そうであれば喜びなさい。<sup>3</sup> 行く道が険しければ、それは忍耐を養う良いチャンスとなるからです。<sup>4</sup> 忍耐力を十分に養いなさい。さまざまな問題が持ち上がった時、そこから逃げ出そうともがいてはいけません。忍耐力が十分身につけば、完全に成長した、どんなことにもびくともしない、強い人になれるでしょう。

- 神は、今の私が信仰を成長させるために最適な負荷をかけてくださっているのだと認めて大喜びせよという。「喜びなさい」は、直訳すると「喜びとみなしなさい」で、Message 訳では、「それは純粋な贈り物だと思いなさい」となっている。
- なぜなら、その誘惑を通して、神は、私に忍耐力を身につけさせ、成長させてくださろうとしているからだ。しかし、すぐには、神の御心に従うことが自分にとっての最善であるとは、思えないだろう。だから続いて、

➤ **葛藤しながら正直に祈れ**：ストレスが、成長への痛み（喜び）であることを受け入れるために

ヤコブ 1:5-8<sup>5</sup> 神が何を望んでおられるか知りたいなら、遠慮なく、直接尋ねなさい。神は喜んで教えてくださいます。願い求める人には、神はいつでも惜しみなく、あふれるばかりの知恵を授けてくださるからです。そのことで、決してとがめたりはなさいません。<sup>6-8</sup> ただ、その場合、神は必ず答えてくださると確信して願い求めなさい。疑う人の心は、風に波立つ水面のように不安定なものです。そんな疑いの心では、主に何を期待してもむだです。

- このストレスの中で、神への正直な祈りが、私にたちには必要になってくる。イエスでさえ、このあとゲッセマネの園において、正直に「できますなら、この盃を飲まずに済ませることはできないだろうか」と祈っている。祈りにおいて、ありのままの自分になることが非常に重要である。
- この祈りにおいて鍵は、神への信頼である。信じて一步を踏み出すこと。

### まとめ

- 神の御心が、私のベストであると信じているだろうか？その理解は、頭だけではなく、心も同意しているか？
- 今、あなたが抱えている問題は、神からの贈り物であると認め、喜ぶことはできるか？
- この贈り物を通して、あることに関して忍耐を学ぶようにとされていることが、何かわかるだろうか？
- それでは、神の御心に従順になるために、どうしたらよいだろうか？